競技力向上、私の意見

飛龍高校　ソフトボール部　総監督・梶原恒利

NEW!!わかふじ国体以来、成年男女・少年男女の競技力がジリ貧傾向にある。東海大会を制し国体本大会出場を勝ち取るために「今何をなすべきか」を永年指導者として歩んでこられた方々に意見を語ってもらった。初回は全国制覇の実績を持つ梶原恒利氏にお願いした。

ソフトボールへの興味づけと魅力づくりを

ソフトボールの競技力向上には底辺の拡大から始めなくてはならない。小学生、それも早い時期からソフトボールに触れさせることが大切で、それには、ソフトボールへの興味付けが必要であり、関係者はソフトボール競技への魅力づくりをもっとやらねばならない。

今、サッカーがブームを呼んでいるが、そこには、我々がやらなくてはならない、忘れている何かが在る。

男子ソフトボールの立場で言えば男子は野球、女子はソフトボールという色分けが出来ている。しかし、野球とソフトボールは似てはいるが異なる競技である。これを打破しなければ男子ソフトボールは強くならない。現に中学校でソフトボールをやり、高校でも続けているチームは確実に全国レベルの力をつけている。野球の付属品的な認識を持ってはならず、このことが拡大の障害になっている。

実質的に強くするには投手を育てることが先決で、ソフトボール競技では投手が勝敗の約八割を占めている。投手を育てるには個々の特質を見極め、技術面、体力面、精神面とその選手を良く観察し、その選手に合った育て方を指導者は研究・実践することを学ばなければならない。

また、指導者は作戦面も含め、ソフトボール競技とはどのような競技なのかを再考の上、現行の指導方法から脱皮しなければならない時期にきている。

ホットコーナー

常葉菊川高校

☆　☆　☆

ぎんぎら銀の全国準優勝

第24回全国高校女子選抜大会

全国高校選抜で準優勝の常葉菊川高ナイン

第二十四回全国高校女子選抜大会に出場した常葉菊川高校は連日健闘し強豪・古豪を破り見事準優勝を達成した。

二回戦で青森県代表の八戸聖ウルスラ学院を一対0で破り三回戦へ駒を進め、九州の強豪・鹿児島県代表、神村学園を二対一で退け準決勝へ。準決勝では昨年苦杯を舐めた神奈川県代表の厚木商業を一対0で破り決勝へ進出。

決勝戦は昨年秋の九州地区大会優勝高・福岡県代表の小倉商業と対戦。前半、中盤と緊迫した試合を展開したが終盤の五回、六回に失点を許し結局0対二で破れた。初優勝はならなかったものの、昨年の三位入賞を上回る準優勝で、全国ナンバー2の座を勝ち取った。

常葉菊川高校の三浦主将は今回の準優勝について「当たり前のプレーを当たり前にやる事を目標に、チームが一致団結したことが良かった。一点差の試合を守り抜いたことが大きな自信につながった。」と勝因をコメント。

新役員紹介

今回の役員改正で新たに副理事長・常任理事、理事に就任した方々のうち、副理事長・常任理事（専門委員長）に任命された十一名の方に役員としての抱負や、任期中最も力をいれたいことなどを中心にプロフィールをご紹介いたします。①所属支部・生年月日。②ソフトボールとの出会い。③役員としての抱負。④座右の銘。⑤任期中に最も力を入れたいこと。

副理事長・村野　豊

①庵原支部・昭和11年7月20日

②社内の職場対抗ソフトボールで好成績を挙げたのをキッカケに、地域でのチーム作りに駆け回った。

③県ソ協と各支部役員とのパイプ役に徹する

④特になし

⑤中部支部より問題が提起された時、速やかに解決できるよう各支部間の連絡を取り、県ソ協発展を願い努力したい。

副理事長・伊藤忠明

①藤枝支部・昭和15年9月18日。

②小学六年の時、学校のソフトボール部で始めた。本格的には藤枝支部が創設された昭和46年ごろ。

③県ソ協発展のため、一生懸命やるだけ。新米副理事長なのでよろしく。

④「登心」中学三年の時赴任してきた校長先生の影響。

⑤規約・登録検討、支部組織検討両委員長と連携を密にし、支部組織の在り方、規約・登録制度の見直し。特に個人登録について。

副理事長・高山良文

①高体連・昭和22年8月8日。

②昭和49年転勤により浜松市立高校の監督になったとき。

③県協会と各支部協会との連携を密にし、ソフトボールの普及・発展に努めたい。

④「苦は楽の種」

⑤減少しつつある中学・高校のチーム数の増加と、各部門と各委員会の協力を得ながら指導者の育成または、増加を図りたい。

副理事長・鈴木　勲

①浜松支部・昭和25年9月19日。

②小さな頃からソフトボールが好きで、入った大学にソフトボール部があり迷わず入部した。

③大野副理事長の後任として、荷が重いが、精一杯がんばりたい。

④「体は心で動く。」

⑤静岡県の競技力を現状よりも向上させるため、みんなで考え、力を合わせ実行したい。

財務部長・小保方精一

①焼津支部・昭和35年1月22日生まれ

②小学校四年生の時、学区内の町内対抗ソフトボール大会が初めての出会い。

③若輩者だが、ソフトボール協会発展のため、精一杯がんばる。

④「有言実行」

⑤チームの登録数が減少傾向で厳しい財政。「抑えるべきは抑え、出すべきは出す。」メリハリのある財政運営。

認定委員長・中村善治

①掛川支部・昭和24年4月10日。

②昭和48年・地域のソフトボールに誘われて。

③先輩の皆様に今までお世話になったので、その恩返しをしたい。（もう返したかな?）

④「朝、制する者は一日を制す。」

⑤先を見越した若い審判員・記録員の育成。

普及委員長・遠藤正吾

①富士支部・昭和23年1月5日

②四十五年市ソ協会の公認審判員資格を取ってソフトボールの試合を担当したのがキッカケで運営に携わる。

③支部役員の経験を活かして県ソ協会の事業運営に貢献したい。

④努力に勝るものなし。

⑤生涯スポーツとしてのソフトボールを盛んにするために、ジョイフルスローッピチ大会を定着したい。

女子リーグ委員長　安本秀樹

①清水支部昭和24年10月31日

②昭和48年静甲㈱に入社後、先輩・同期と一緒に楽しむ為のソトボールチーム創ったのが始まり。以降記録の世界に飛び込んだ。

③微力ながら競技力向上に努力したい。

④「皆で努力、皆で話し合い、そして成果を出す。」

⑤最盛期の頃加盟8チームだったこともある。今後はチーム数の増加に努めたい。

障害者委員長・鈴木新平

①庵原支部・昭和13年12月23日。

②昭和39年町内会のソフトボール大会。

③先輩役員の指導の下県ソ協会の運営・発展に努力したい。

④「勇断実行。」

⑤障害者審判員の指導と増員に努めたい。特にグランドソフトボールの審判員増員をはかりたい。

少年委員長・児島洋美

①御殿場支部・昭和22年7月8日。

②用具も充分でない頃小学生高学年時代。

③少年チームの拡大を基に、県ソ協の発展のために全力投球で尽力したい。

④継続は力なり。

⑤少年委員会の組織の充実を図り、信頼関係を構築したい。

高体連委員長・鈴木広隆

①高体連・昭和40年7月13日。

②前任校の吉原高校ソフトボール部顧問になったこと。

③高校生の大会運営を審判委員会の協力をいただいて、円滑に運営したい。

④努力と工夫

⑤国体ブロック予選を突破し、本国体に出場できるよう努力する。

― お詫びと訂正 ―

第一一九号のトピックスで紹介のメモリアール・ボールの製造元の名称と所在地は次の通りです。製造元・株式会社江永化成、所在地・志太郡大井川町。

平成十七年度ベストナイン

▽男子

投手・釼持有介（駿河クラブ）捕手・酒井創（浜松市役所）一塁手・漆畑知之（駿河クラブ）二塁手・高木俊哉（浜松市役所）三塁手・塩谷茂樹（駿河クラブ）遊撃手・保坂知範（鳥建クラブ）外野手・小長谷和生（鳥建クラブ）野澤和弘（浜松市役所）上和志（鳥建クラブ）DP・小出弘章（浜松市役所）

▽女子

投手・佐藤利恵（NECアクセステクニカ）捕手・関口直美（静甲・株）一塁手・計盛志津子（静甲・株）二塁手・野口めぐみ（NECアクセステクニカ）三塁手・大矢留美（静甲・株）遊撃手・鈴木優子（静甲・株）外野手・大瀧百合香（静甲・株）木下愛美（NECアクセステクニカ）前田真美（静甲・株）DP・奥村理代（静甲・株）